

海外安全対策情報
(令和２年度第４四半期)

在エチオピア日本国大使館

１．社会・治安情勢

第４四半期（令和３年１月～３月）の情勢は以下のとおり。

- （１）令和２年１１月４日に発生したティグライ州における武力衝突については、ゲリラ戦の様相を呈し始め、同州内全域において断続的な衝突が続いている。

衝突開始以来同州で続いていた通信障害や停電などのインフラについては回復を見せているが、安定的な供給には至っていない。携帯電話は同年１２月１２日に復旧したものの、インターネットは引き続き一部施設のＷｉ－Ｆｉを除きつながっていない。州内各地で頻発している衝突や襲撃事件の影響により、停電や通信障害がたびたび発生しており、余談を許さない状況が続いている。

州都メケレへは空路・陸路ともに通行が可能となったが、航空便の欠航や道路封鎖などがたびたび発生している。

州都メケレでは夜間の外出禁止令が継続されている。市内における衝突は発生していないものの、一般治安情勢は非常に悪く、強盗や窃盗事件が頻発している。

ティグライ州における武力衝突発生後、エチオピア国内の治安情勢も深刻な影響を受けており、国内各地で武装勢力が勢力を増し、通過車両や住民に対する襲撃を繰り返し、政府治安部隊との衝突が日常的に発生している。

- （２）アディスアベバ市内では、通行人に対するひったくり、通行中の車両を停止させて気を引いた隙に車載品を窃取する盗難事件、アパートや民家に対する侵入窃盗事件が頻発している。アディスアベバ市警は、２月１９日、殺人や強盗の容疑で５３名を逮捕した旨発表した。
- （３）３月１８日、アムハラ州東部の北シェワ県、オロモ特別区などにおいて、武装勢力による襲撃事件が発生し、住民が犠牲になったほか、治安部隊との衝突により、多数の死傷者が出た。また、この衝突により橋などのインフラに被害が出ており、一部幹線道路が通行不能になっている。
- （４）アムハラ州のスーダンとの国境近辺において断続的にアムハラ州軍とスーダン軍の衝突が発生している模様。

- (5) ベニシャングル・グムズ州においては、グムズ人と思われる武装勢力がアムハラ人や通過車両を無差別に襲撃する事件が多発しているほか、治安部隊との衝突により、多数の死者や避難民が生じている。

武装勢力は行動範囲を広げており、メテケル県を中心に、カマシ県、アソサ県、アムハラ州の隣接地域などにおいても衝突や襲撃事件が発生している。

治安情勢の悪化を受け、1月21日、エチオピア連邦議会は、ティグライ州に発令されていた非常事態宣言をベニシャングル・グムズ州のメテケル県にも適用させることを決めたが、治安の悪化に歯止めがかかっていない。

- (6) オロミア州ウェレガ地域（西ウェレガ、東ウェレガ及びケレム・ウェレガ）、グジ地域、ボレナ地域では、依然として武装集団による襲撃事件や治安部隊との武力衝突が頻繁に発生している。

オロミア州西部の西ウェレガ地域では、ティグライ州の武力衝突発生後衝突が激しさを増し、3月30日には武装勢力が住民を襲撃し、28名が殺害されるなど、日常的に衝突や襲撃が発生している。

オロミア州南部のグジ地域でも武装勢力が勢いを増し、グジ県東部では政府機関が一時避難を余儀なくされている。

- (7) 2月5日から10日にかけて、オロミア州の西シェワ県、南西シェワ県、東ウェレガ県、西ウェレガ県、ケレム・ウェレガ県、西ハラルゲ県において、収監中のオロモ民族主義者が行っているハンストに関連し、同人らの釈放を呼びかけるデモが行われた。デモはおおむね平和裏に終了したが、ボレナ県では、抗議が暴動に発展し、1名が殺害された。

- (8) アファール州とソマリ州の州境一帯においては、アファール系民族とソマリ系民族の間で激しい衝突が長期間にわたって発生している。同所近辺は両民族の居住地が混在しており、6月の総選挙の選挙区選定が新たな火種となって衝突が激化している。

- (9) 3月に入り、国内における新型コロナウイルス感染拡大が急速に進んでおり、エチオピア国内のコロナ病床は満床が続いており、医療用酸素も欠乏しているとされている。感染拡大防止のため、エチオピア保健省は司法省と合同で、令和2年10月5日から施行されている新型コロナウイルス感染予防に関する規則の取締り強化を発表した。

- (10) 6月5日及び12日の総選挙に向け、各党の選挙活動が開始されたが、一部野党関係者が殺害されるなどの事件が発生しており、選挙の前後に治安状況が悪くなる可能性があり、今後の情勢に注視が必要である。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

当地における主な手口は以下のとおり。なお、外国人を狙った複数名による首締め強盗や、歩行中の外国人を狙った窃盗事件が特に多発しているため、徒歩での外出は極力控え、特に早朝夜間は近距離であってもタクシー等を利用することが望ましい。また、車両乗車中は確実に施錠し、安全が確保できない限り降車しないこと。降車する場合は周囲の安全を確認のうえ、貴重品を確保し、隙を作らないことが重要である。

(1) 強盗事件

この四半期における邦人被害はないものの、アディスアベバ市内においては引き続き強盗事件に対する警戒が必要。過去には早朝及び夜間に徒歩で移動している際に、背後から首を絞められ、抵抗できない状態に追いやられ、携帯電話や財布を強奪する手口が多く発生している。

(2) 侵入窃盗事件

アディスアベバ市内の、特に外交団や外国人の住宅（マンション含む）への空巣被害が増加している。塀のある戸建て住宅であっても、外壁沿いの電柱等から容易に侵入されるケースがある。マンションにおいては、複製された鍵又はマスターキー使用と思われる空き巣事件が多発している。新規に入居した場合は錠を付け替えることが望ましい。エントランスに警備員が配置されていたとしても、知人を装う等の方法により容易に侵入できる場合がある。また、夜間住人が就寝中に窓から侵入する忍び込み事件なども発生しているため、アパートの場合はできるだけ高層階を選ぶなど選定には十分な配慮が必要である。

(3) 歩行中の窃盗事件

アディスアベバ市内において、スリが横行している。犯行手口の一例としては、複数名が歩行者に近づき、雑誌等を売る素振りや、服に唾や液体をかける、腕を掴む等して一人が気を引いている間に、他の者が歩行者の胸、ズボンのポケットから携帯電話機や財布を盗む手口が認められる。

(4) 車両乗車中の窃盗事件

アディスアベバ全域において、車両運転中の外国人に対して車の不具合などを指摘して降車させ、気を引いている間に別の者が車載品を窃取する手口が増加している。また、渋滞で停車中の車両のドアやトランクを開けて携行品を窃取する等の手口が横行している。

3. 殺人・強盗等凶悪犯罪の事例

(1) 殺人

邦人被害の届け出はない。

(2) 強盗等

邦人被害の届け出はない。

4. テロ・爆弾事件発生状況

上記 1 (1) ～ (4) のとおり。

5. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害の届出はない。

6. 自然災害発生の事例

乾季の乾燥した気候により、アディスアベバ市などにおいて、大規模な火災が頻発している。

地元メディアの報道によれば、1月30日から2月1日までの間、アディスアベバ市内において6件の大規模な火災が発生した。

7. 対日感情

新型コロナウイルス発生当初は日本人を含む外国人に対する風評被害が広がった。現在対日感情は落ち着いているものの、外国人に対し、突如罵声を浴びせるなどの事案が散見される。

8. 日本企業の安全に係わる諸問題

多くの日本企業関係者が新型コロナウイルスによる一時帰国から帰任し、事業を再開しているものの、ティグライ州における武力衝突以降、エチオピア各地において治安上深刻な影響が出ている。

ティグライ州においては深刻なインフラの破壊が懸念されており、経済活動が正常に戻るまでには相当な期間を要すると見られている。

当面ティグライ州はもちろんのこと、エチオピア全土における治安の推移を注視するほか、これまで以上に情報収集を徹底し、治安の急激な悪化やそれに伴うインターネット遮断などの事態に備える必要がある。